

---

# 風よりも。

Y U

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

風よりも。

### 【Nコード】

N2181J

### 【作者名】

YU

### 【あらすじ】

水嶋亜樹は桜ヶ丘高校の1年。

中学で果たせなかった夢を中学時代の仲間とともに果たそうとする。

亜樹達は陸上界に名を轟かすことができるのか!?

## 第0話プロローグ。

ピンポン。と玄関のベルが鳴ると同時に母さんが、

「亜樹、まみちゃんが来たで。」

と言われ時計を見た。7時45分。約束の時間は8時。

「早い。まだ8時なってないやん。」

愚痴をこぼしたら、聞こえてたんかはわからんけど、

「女の子を待たすんか。」

と亜美が言ってきたから、

「待たすって言うよりあいつが早すぎやねん。」

と言いながら出かける用意をした。

「おはよっ」

一言ガツンと言おうとしたけどその言葉で言えなくなっちまった。

「おう、おはよー」

まみの顔のニコニコ顔には昔から弱い。たぶんあいつはそれが分かってる。だからいつも先手をうつってくる。

「来るん早ないけー」

恐る恐る聞いてみると、

「ちょっとね」

と頬少し赤くして答えた。

「そっぴやさ、まみって亜美と同じ高校行くねんな」

「うん。女子高やから楽しみ」

「女子高かー。少しは女らしくなるんかな」

冗談まじりで言っただつもりが本気に思っで一発殴られた。

そのまま学校に着いて教室に入ろうとしたとき、

「終わったら正門で待ってるし」

と言われた。そのことが気になって卒業式に身が入らなかった。

急いで門まで行くと、まだ誰もいなかった。5分ぐらいいしてやっと来た。

近くの公園に移動して、一言二言言われた。

「マジで！俺でいいの？」

コクリと頷いた。

周りの木の桜が咲き始めた頃だった。

## 第0話プロローグ。(後書き)

初の小説なので変な部分がありますが、読んでいただけるとうれしいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2181j/>

---

風よりも。

2010年12月13日22時48分発行